

伊勢湾の症状「透明度の低下」・「漂着ゴミ」

○透明度

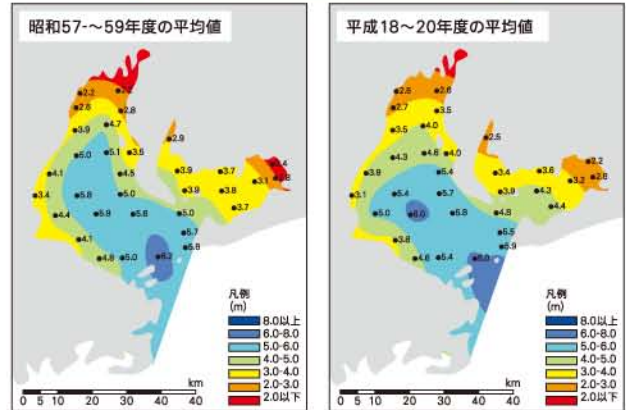
透明度とは湖や海の水の透明さを表す値です。直径30cmの白色円板(セッキ円盤)を水中に沈めて、海の色と紛れて見えなくなる深さ(m)で示します。



▲セッキ円盤



伊勢湾における透明度の分布



注1：各図に示す期間において測定された透明度の平均値より作図した。
注2：図中の数字は、近傍黒丸地点での測定された透明度を表し、分布は測定結果から作成した。
出典：環境省「閉鎖性海域中長期ビジョン」

伊勢湾においては、昭和50年代に比べ改善は見られますが、湾の中央に比べて湾の奥は透明度が低くなっています。水中のプランクトンやその死骸、あるいは陸上からの細粒物質(汚濁物質)が増えるほど透明度は低下します。赤潮などで植物プランクトンが増殖すると、透明度は1m以下になります。透明度が低いと、海中へ届く光の量が少なく、海藻など海中植物の成長が妨げられるおそれがあります。

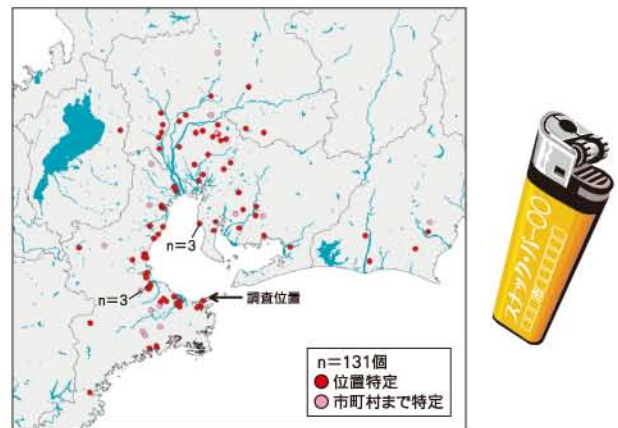
ただし、透明度は高ければよいというわけではありません。日本の南岸に沿って北上する黒潮(透明度は30～40m)はきれいに澄んでいますが、実は貧栄養のため魚が少ない海流です。一方、千島列島に沿って南下してくる親潮(透明度は10～15m)は、栄養塩に富み、豊かな漁場となっています。

○漂着ゴミ



▲海岸に流れ着いたゴミ

笠志島に漂着したライターの発生場所の推定



出典：環境省「漂着・漂流ゴミに係る国内削減方策モデル調査」検討会資料

漂着ごみによる問題

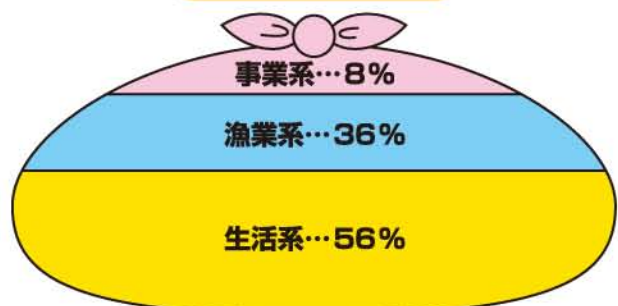
- ▽観光地としての景観の悪化
- ▽漁獲物にごみが混入する
- ▽海洋生物がからまったり、誤飲・誤食する
- ▽回収・処理に大変な手間とお金がかかる



▲釣り針にからまったミスナギドリ

海岸に流れ着いたゴミを調査した結果、海から離れた場所のゴミが海までたどり着いていること、海岸に流れ着いたゴミは、生活系ゴミが多くを占めていることが分かりました。具体的にはペットボトル、食品の包装、容器、生活雑貨、ふた・キャップ、袋類、空き缶、くつ・サンダル、苗木ポット、ガラス瓶、おもちゃなどが多く含まれていました。

漂着したゴミの種類



7県1海岸の調査結果の合計。但し、プラスチック等の破片を除く。
出典：環境省パンフ「漂着ゴミについて考える。私たちの海を守るには?」